

日時:令和6年(2024年)8月20日(火) 9:30~12:00

場所:市役所 3B 会議室

欠席委員:1名

傍聴者:なし

委員長

開会

事務局

委員の出席確認・会議の成立

委員9名中8名の出席があり、会議の成立を報告。

委員長

傍聴者確認

本日の傍聴者はいるか。

事務局

本日の傍聴者はいない。

委員長

議題1. 答申書(案)について

これまでの間、答申書案の取りまとめを副委員長・事務局と共に行ってきた。50 ページ程度のボリュームとなっており、内容の濃い答申書となっている。「答申にあたって」の部分は私が今回の委員会のまとめとして書いている。いつもは2点か3点書いているが今回は1点のみに絞り、アウトカムについて記載した。役に立つ評価を実施するためのメッセージであり、指標の見直しは今後も続けなければいけないので、その指針になると思っている。答申の内容について、皆さまにたくさんのご意見をいただき感謝申し上げます。施策や交付金については、私の方で昨年までの例に倣ってまとめた。重複した論点は集約し、文章が長いものについては要約した。論点が離れすぎている部分については削除したものもある。今日は答申書案をご覧ください。追加の論点や、ここは残してほしいなどご意見を賜ればと思う。このあと事務局から答申書の案についてご説明いただく。

事務局

(答申書(案)の施策評価について説明)

委員長

以上の修正案が、役所側とのコミュニケーションの結果であるがこのまま反映しなければならぬというわけではない。修正の提起をいただいている状況である。

1-1 市民自治・協働

この範囲でご意見・追記希望等あるか。

委員

私が書面評価で出した施策 1-1 (3)の成果指標①について「コントロールできない指標であるため」が追記されているがこの、そもそも目標値を上回れば、この施策が達成されているといえるのか。このアンケートが使われたこと自体について、指標として意味がないのではないかという指摘として出させていただいたものであり、コントロールできない指標であるからと理由を限定したものではない。

委員長

そうすると「行政でコントロールできない指標であるため」は追記をせず、端的に見直しが必要であると言ったほうがいい。そのほかいかがか。特になければ今の意見を反映する。

1-2 人権男女共同参画

この範囲でご意見・追記希望等あるか。

委員

(2)の書面評価をした。この施策自体がどうなのかという疑問がある。市ができることもあると思うが、戦争や核兵器のない平和な社会の実現というのは施策の目標として大きすぎるのではないか。やっていることは、戦没者の追悼式と平和都市推進事業でありいわゆる政策に対して施策が納まっていないように感じる。

事務局

どういう風に記載を改めればよいか。書き方が難しい。

委員長

書き方は確かに難しい。私も思っていることを意見させていただいたので、意見として取り扱ってもらえればいい。

委員

平和の問題は実際に何を展開していくかが大事だと思うが、同時に市として目標が大きいかというところ、地方自治を見ている側としてはかつての戦火を経験された方の蓄積・歴史の中で積み重ねたものが残っているというのはそれ自体に価値がある。世界でも紛争が起こっており、きちんと繋げていくことは大切。グローバルに考えローカルに行動するという言葉があり、繋がることを意識することは大切だと思う。私自身としてはこの施策は、繋がることを守っているのだと思う。一意見として申し上げたい。

委員長

平和に限らず、1-2について追記や修正あるか。

委員

(1)の人権文化センターの関連事業についてコメントした。評価表を拝見するに、研修しかやってないよう読める。我々は少ない情報量の中で評価をするので、他のことも実施しているのであればしっかりと記載していただきたい。

1-3 開かれた市政

委員長

(3)に修正が入っている。

委員

ふるさと納税の返礼品については事実即して成果が上がっているので良いかと思う。個人版ふるさと納税はかなり目標を達成していて、宝塚はさすがだなと思った。返礼品も歌劇一本ではだめなので姉妹都市の松江市などと工夫を凝らして色々されているので良い評価でいいかと思う。

企業版ふるさと納税は確かに使い勝手が悪い。令和6年度で終わるという話もあるし、値決めは企業の見積額でよいとされ、曖昧さが残りどう決めたらいいかわからない企業もある。例えばEV車などを寄附する場合、市の課題解決につながる名目が必要であり、企業の思いつきで寄附しますというのはよくない。課題解決を双方で行うための手段として企業版ふるさと納税制度を活用することが重要である。宝塚として今後も企業版ふるさと納税に力を入れるのかどうか、スタンスを明確にした方が良い。総務省の見解待ちかもしれないが個人版と同様、企業版ふるさと納税にも力を入れた方が良く思う。ただ仕組みや制度面でグレーゾーンが残っているので、様子見となるのも理解できる。企業版は目標値を掲げてもっと進めていこ

うとしているのか。

政策推進担当
次長

おっしゃるようにこの制度がいつなくなるのか、引き続きやっていくのかはまだわからない。他市では大きいプロジェクトを立ち上げて基金に積むやり方をされている自治体もある。基金に積むと、大きい額をいただいたり、プロジェクトに参加できる可能性のある企業を広げることにつながる。現時点では、本市はそこまではできていないが、制度が続くのであれば検討していく。

委員

沖縄のある自治体では、企業版ふるさと納税の受け入れ額が自治体の予算よりも上回っている地域もあるようだ。それが企業の売名行為や PR になってはいけませんが、有効に活用できるのであればよいと思う。

企画経営部長

活用はしたいと市としては思っている。ただ大きな仕組みとしてはわかるが細かな部分で課題はいろいろある。他市で契約の公平性の担保に課題のある事例があったと聞く。国の方で一定の制度の見直しを進めるようなので、国の動きを見ながら、制度の継続、見直しがなされるのであれば、市としても最大限活用していきたい。

委員

企業版ふるさと納税は、法人税等で9割還付されるので、単なる寄附ではなく、この仕組みの活用が社会貢献・地域貢献に繋がるのであればいいシステムではあると思う。国の制度設計が追い付いていないのかと思う。

委員長

結論としては、事務局の修正案でよいか。ふるさと納税の一番下の記述について、これは何を意図しているのか。

事務局

こちらについては必ずしも変更を依頼するものではなく意図を確認したかった。市民はふるさと納税をおこなうことができないので、市民に対する発信を強化していくべきという意見と理解しているのかという確認である。

委員長

外部に対してしっかり発信しないとふるさと納税は集まらない。市外に対するまちの魅力を追求してほしい。市民に発信しても直接的には伝わらないので、他市の方に対してしっかり訴求しないと集まらないという意図と認識している。

委員

この部分は外からふるさと納税を集めましょうというよりも、ふるさと納税を集めるためではなく市民に対しても宝塚市の魅力を発信したほうがいいのではないかという意味での記載だと思っていた。

事務局

複数の見方ができたため意図を確認したかった。

委員長

逆にぼやかしてはどうか。いずれにしても住民に対しても外に対しても魅力の発信がふるさと納税のカギになるのは間違いない。しっかりと説明をしなければならない。情報発信が弱いところではきちんと言わないといけない。

- 委員 ふるさと納税もここに入ってしまったているが、施策の方向性自体はまちの愛着を高めるような魅力発信であり、市民に対してそれが足りていないのではないかという主旨なのかと思っていた。ふるさと納税を集めるためだけではなく市民のまちへの関心や愛着を高めるための意見かと思う。
- 委員長 確かにそう書いてある。「ふるさと納税を行うことはできない」と書いていて、ふるさと納税以外のまちの魅力をちゃんと説明してもらいたいと。
- 委員 「市民の視点に立てば」が先なのかもしれない。この施策には市民の内発的なまちへの愛着や関心をあげるという部分も含まれる。ただふるさと納税が前面に出てきているし評価もそのように書かれているが、ふるさと納税だけではなく市民の視点に立ってまちへの関心愛着を高めるようなことをやっているのかを説明してほしいというメッセージである。市民の視点からみるときにふるさと納税を行うことはできないので、市民に対しての魅力発信はどうなっているのか。それは大事な指摘だと思っており、どうしても外からお金を持ってくるためのことが評価表にも書いているので施策自体の本来は内発的な愛着や関心を高めることだと思う。そこについてあまり書かれていないのではないか。
- 委員長 私が原文を書き副委員長に確認してもらうなどやり取りしながら取りまとめた。意図は皆さんの発言のとおりであるので、文章は変えずに元のままだでもいいのではないか。
- 事務局 意図だけ担当部に正しく伝えたいという思いだったので、ふるさと納税以外のまちの関心を高めるという意味で、市内外への発信が必要だという意図と受け取ったらいいか。
- 委員長 そのとおり。では、原文のままとしてよいか。
- 委員 ふるさと納税の話はむしろ外してしまい、本施策は対外的なものだけではなく市民に対しても街への愛着や関心を高める施策のはずであると記載し、市民にとってのまちの魅力をどのように発信しているのかを説明してほしいという意見とできないか。
- 委員長 ふるさと納税を書かないほうがわかりやすい。この施策は施策の方向性にあるように「市民」のまちへの愛着や関心を高める施策でもあると指摘して、そこがどうなっているのかを聞きたい。
- 委員 ではもう一項目起こしてはどうか。指標にふるさと納税があがっていたのでこういう書き方をしているのではないかと思う。1-3(3)がまちの魅力の効果的な発信になっていて指標①がふるさと納税の件数になっている。ふるさと納税の件数だけが突出しているのもそれ以外の魅力を発信いただきたいと思い書いている。
- このコメントを記載した委員長自身がふるさと納税獲得のためにまちの魅力を発信してもらいたいという思いだったのか。
- 委員長 その意味も含んでおり、ふるさと納税の件数の実績だけ PR してもあまり意味がないので宝塚市の魅力そのものを発信しないといけなのではないかという意見である。施策のあり方で

効果的な PR に取り組むと言っているがその分が評価表には表現されていない。指標を前提とすればふるさと納税ばかりに突出するのはおかしいのではないか。

委員

委員の意見を統合した形で原文となっており、本来の施策の趣旨である市民の内発的な関心愛着を高めるような発信はどうなっているのかという意味合いが薄れてしまっているのかと思っていたが、元々、委員長の記載した趣旨が、ふるさと納税の獲得に向けた発信も含んでいたのであれば、委員長に判断を一任する。

委員長

幅広く解釈できるような形で書かせていただければと思う。原文ままとする。

事務局

事務局の意図だけ伝えさせていただくと、後々半年 1 年と経ったときに、この文章を見て何を指摘されたかわからないということにならないようにしたいと思い聞かせていただいたものである。

委員長

1-4 情報化

こちらについてコメント・意見はあるか。
特になさそうなので次に進む。

1-5 行財政経営

(1)時代にふさわしい市民サービスの追求ということで5点指摘を書かせていただいた。対面評価の分である。包括連携協定先との顔合わせについて「引き続き」を追記してほしいと事務局から意見が出されている。引き続きという表現を挿入することで一度も顔を会わせていない連携先はないという意味合いが含まれるということか。

政策推進担当
次長

今の状況をキープしていただきたいという形にさせていただければと思う。

委員長

承知した。(2)については誤字と文言修正について事務局案が出ている。(3)は追記対応したので、一部指摘を削除いただきたいということだと思う。意見等いかがか。

よろしければ先に進む。

3-1 健康・医療

事務局をお願いしたいが、施策が切り替わる時はページを改めていただきたい。
ここまででなにか質問、追記などあればお願いしたい。

私から1点、21ページの自殺予防対策が社会的アプローチだと書かれている部分だが、ここは自殺予防対策に限定した話ではなく、施策がいっぱい入っていて体系として見えにくいという話をしている。限定されると話が変わってしまうので追記した分は削除いただきたい。構成事務事業が食育、健康センター管理運営事業、予防接種、がん検診、後期高齢者まで含まれていてさらに自殺予防対策事業が入っているので、施策のくくり方について次の総合計画の時には見直していただいたほうが良いという意味合いである。

他はいかがか。ないようなので次に進む。

3-2 地域福祉

こちらについてはいかがか。
意見がないようであれば次に進む。

3-3 高齢者福祉

こちらについてはいかがか。
意見がないようであれば次に進む。

3-4 障害者福祉

障害の書き方については、市の方針で「障害(がい)」で統一するという事務局の意向である。

何か意見あるか。

委員

33ページの 3-4(2)の意見の3つ目、私が書いた文章だと思うが、読み返してみると「社会的には虐待通告件数が減少するよう、引き下げていくべきではないか」としているが虐待の通告は伸ばしていてもいいとは思いますが、実態を減少させるべきでここはもう少し丁寧に書かないとだめだなと思った。「社会的には虐待通告件数が減少するよう、環境整備に尽力するべきではないか」としてはどうか。よって目標値として設定するものではないと思う。

委員長

それでは、「社会的には虐待通告件数が減少するよう、環境整備に尽力すべき」とする。そのほかいかがか。なければ最後の施策分野に移る。

3-5 社会保障

事務局からのコメントで「全般的なことだがシステム上の問題で目標値が R8 年度までしか入力できない。R7年まで入力しているところを R8年まで入力しているところが混在している」とあるがシステムを改修するということか。

事務局

後ろずらして、R12年度の目標をいれるなり改善をしていきたい。

委員長

コメントを変える必要はあるか。

事務局

その必要はない。

委員長

他にコメントなどあるか。

委員

3-5(2)の書面評価を担当した。国民健康保険の被保険者を調査や評価の対象としているが、国民健康保険の被保険者は宝塚市民全体からすると限定された人数だと思う。他の保険、例えば健康保険などとの情報交換を図る努力はできないのかと前から思っていた。また、徴収事業については担当課が国民健康保険課となっているが市税収納課が担当なのではないか。担当部署と実際に実行する部署がもし違ったときは、両方書くなどしないと評価表が不正確になってしまう。

委員長

どこか修正を要するところはあるか。

- 委員 文言はこれで問題ない。今後、施策評価表などを作成するときに担当部署、例えば保健事業のところでは国民健康保険課だけではなく健康推進課などはっきりしていただき、部署間を並列して書くなど、改善を図っていただきたい。
- 事務局 国民健康保険の事業だからと言って国民健康保険課だけが評価表を書くのではなく、関連する部署が共に書いて事業の評価をすべきというご指摘かと思う。
- 委員長 しっかりと連携をとっていただきたい。
その他いかがか。なければ施策評価についてはここまでとする。
このあとの答申には夢・未来 たからづか創生総合戦略、交付金の話が含まれる。40 ページ以降の説明を事務局より願います。
- 事務局

夢・未来たからづか創生総合戦略の評価結果
地方創生推進交付金事業の評価結果
- 委員長 最後の起業セミナーの所感を得た部分はアンケートを実施したのか。それであればアンケートに基づきみたいな文言を担当部局と協議のうえで追記いただきたい。
他に意見ないか。なければ、全体にわたってコメントやご意見ないか。
- 委員 成果指標の中で目標が R7年度までしか入っていなかったり R8年度まで入っていたりした。今回色々見直す中で第6次総合計画は前期後期で区切らないと言っていた。今までは基本構想、基本計画、事業の3層で長期中期短期でやっていたかと思うが2層になってどういうマネジメントをしているのか。中期が抜けてしまうという形でどういう風に進めていっているのか。今委員会は3年目であるが、それを初年度に説明いただければよかった。そういうことがわかっておけば R7年までしか予定が入っていないことなどは解決している話だったかと思う。2層にしたことについては済んだことだが、基本構想について義務ではなく努力義務になった。そうすると目標値も長期で入れなくてはいけないということではないのだと思う。その中で中期の計画をなくしているのは他市やいろいろな流れを見ていると違和感がある。施策を作るときには目標値をどうするかなどの指示がされていたのか、されていたのであれば部署によって入れ方が違うので統一化されていないのではないか。
- 事務局 昨年までは令和7年度を一定の中間年度としており、令和7年度までの目標値を評価表に入れていた。令和7年度が近づいてきたため、今年度は1年倒して8年度までの目標をいられるようにしていた。ただ、これから中間年度も超えて12年度に向けた目標を立てていかないといけないという認識をしたというところである。なお、総合計画の体系については、基本構想、基本計画に加えて、従来は計画期間3年間の実施計画定めいたが、第6次総合計画ではは実施計画は総合計画からは外している。
- 委員 実施計画は事務事業ではないのか。
- 事務局 実施計画は施策を構成する主な事務事業を3年計画で記しているものである。総合計画には入れないものの。総合計画を実現するためにどういった事業をしていくのかを3年計画で毎

年定めている。

委員長

そのあたりの説明をわかりやすく担保していただくことを求めているのだと思う。ルールが何かということと、令和8年度まで1年分の目標値を付け加えていたというのも、そのように全庁周知していたら、課によって不整合は生じなかったのではないかと。次からそういう風に申し送りしていただければと思う。ここまでは前期計画、ここからあとは見込みで目標を立てておいてくださいといったことを作業依頼の時に説明する方が良い。あとは総合計画のトータルと前期後期、3年のローリング、毎年の事務事業の評価、創生総合戦略などの関係が非常に複雑である。これが最上位計画だといわれても論理的に理解ができない状態になっている。次の総合計画策定の際の課題かと思う。

その他コメント・意見等いかがか。それでは本日いただいた意見に基づき答申案を修正し、副委員長と確認をして確定版とさせていただければと思う。もし追加でご意見ある場合は、委員長預かりにさせていただければと思うので今週中までにご意見いただきたい。答申が確定したら、また委員の皆さんにお送りする。9/6に答申書を私から市長にお渡しする予定となっている。市長に面談して答申書を渡すので、コメントとして伝えてもらいたいことがあれば、合わせて事務局までご連絡いただきたい。

議題2. これまでの行政評価委員会の振り返りと次年度以降の評価方法について
まずは事務局より説明をお願いします。

事務局

(説明)

- ・開催時期・回数について
- ・課題と方針について(評価表・指標の充実、書面評価のあり方、今後の進め方について)

委員長

事務局の説明についてご質問あるか。

委員

最終的に市民への公表という話があったがどんな形で公表するのか。

事務局

答申書についてはそのままPDFでホームページに公表している。それとは別に、外部評価のコメントを入れた施策評価表もホームページで公開している。

委員

それはどれぐらいのボリュームなのか。尼崎市が「行政の通信簿」を出しておりそれがわかりやすい。どの施策がうまくいっていて、どれがうまくいっていないのかが一目でわかる。ああいうことをやっていただくと私たちも頑張った甲斐があると思う。市民の方にとっても税金ってこういう風に使われているということがよくわかるので参考になると思う。

委員長

それは尼崎市の施策評価か。

委員

尼崎市のホームページで「まちの通信簿」として掲載されている。

委員

市民がどれぐらい見ているかはわからないが、市民に分かる形で載せているという点が優

れている。

委員長

総合計画の通信簿として、行政が主要取組ごとにできた、できないと通信簿の形式で表現されている。

事務局

宝塚市の公開の仕方の現状としては 83 施策の評価表を6つのめざすまちの姿に分けて載せている。見せ方について工夫の余地がないかというご指摘かと思うので今後の課題としたと思う。

委員

質問だが、書面と対面があったが委員長と相談してどれが書面、対面とすると決められたと思うが、今回の案で上がっている30施策では、客観的な選定や、なぜそれが選ばれたかが不明確である。それがないと都合のいいところだけ出てきているのではないかと思ってしまう。明確にしてもらったほうがいいかと思う。

委員長

委員会の回数にも関係するが、対面評価の選定に当たり、1回分を準備として選択することに使わないといけないということかと思う。オンラインでもいいかと思うが、検討していただく余地はあるかと思う。こういう手順で選びましたということを答申書には書いていくことになるかと思う。

その他いかがか、お気づきの点はまたあとでお伺いする。

委員が意見を書面にまとめていただいたので説明いただけるか。

委員

7点書かせていただいた。

①まず答申がどのように使われているのか。どのようなところでどのように PDCA サイクルの利用が行われているのか。事業検証の説明の中では財政経営戦略本部などの説明が出ていたが、答申書がどう活かされていくのかがわからなかった。

②前裁きとして事前質問書で改善は図られているが、指標や施策そのものの妥当性の質問がかなりのウエイトを占めていた。本来の行政評価委員会は内部評価に対する外部評価だかと思う。それでない議論が先に進まない。事前に事務局で前捌きをしっかりやっていたらいい。

③総合戦略とデジタル田園都市国家構想交付金の評価について評価ポイントの説明がない。総合戦略の中での施策や KPI の評価だろうとは思っている。ある先生のレポートを読んだところ、総合戦略は専門家の委員会でも何回もかけてされていた。今回、短い時間で委員会で評価するのは無理があるのではないか。せめて総合戦略の評価も3年ローリングで施策評価と一体的に進め、施策と重なる部分については一緒に評価してはどうか。

④施策の指標・KPI の変更について変更をお勧めするのも評価委員会の役目だと思う。変えることができるかを担当部局に確認するのではなく、変えるべし、再考するべしとしていくべき。令和3年度の実績について令和4年度の評価委員会での指摘に対する対応が HP に載っていたが令和4年度分は載っていない。また、評価委員会のミッションは内部評価に対する外部評価である。1年目は施策評価シートに内部評価という欄があり、2年目からそれが消え、総合評価のみになった。内部評価と総合評価は別の方がしていたかと思う。そこがなぜ消えたのか。

⑤市民アンケート結果の指標利用について、ずっと疑問を持っている。行政評価の目的という

ことで HP には総合計画の進行管理、評価に基づく改革、実施手法の検証、市民に向けての説明責任、職員への意識改革とあるが、アンケートではその時の市民の感情が出てしまい、職員の方の努力が見えず、これでは職員の働き甲斐がなくなってしまうのではないかと危惧している。アンケートはあくまで参考にするものであり、指標にするものではない。

⑥北部地区については、総合戦略では「北部地区のまちづくり」として1つにまとめられていて非常にわかりやすかった。総合計画では、例えば武田尾駅のバリアフリーについてが出てくるが、実際問題乗車数が少なく JR もしていないところをなぜ必要なのか、西谷地区そのものをどういう風にするのかと一見思ってしまう。人を呼び込み開発し、西谷地区をどういう風にするから交通網の整備が必要などの説明がないと公平性、有効性、効率性などの観点で、他の地区の人が見たときに疑問を持つのではないかと感じる。施策として個別に立てるのが難しいのであれば、西谷地区のプロジェクトだとかこ書きでわかるようにするなど特別感をだしてはどうか。

⑦その他の部分については先ほども申し上げたところなので割愛する。

委員長

今までの経験を踏まえて全般にコメントいただいた。感謝申し上げます。事務局から返事がいただけるものあればお答えいただきたい。

事務局

①答申の具体的な使い方について、決算特別委員会の前に議会やホームページで公表する。それに先立って都市経営会議という市長から部長で構成される会議に内容について共有をしている。いただいた答申書の指摘に対しては事務局から全庁に照会し次年度の評価表に向けてどう改善するかを聞き、改めて都市経営会議にてどう改善したかを報告している。

②前裁きについて、事務局が至らないところがあったかと思っている。評価を3年していただき一巡したので、これまで指摘いただいた内容を指標等に反映することでより内容について議論していけるようになっていくかと思っている。評価表として不十分なところもあったかと思うので一定評価表のレベルが上がることによって内部評価に対する評価に時間が割けるようになると思う。

③総合戦略については重要な計画だと思っているが総合戦略の1つ1つの施策が総合計画での事業と重なってくるのでそれぞれ別に評価すると重なり重複がある。今後の総合戦略のあり方についてはいただいた意見も含めて今後検討していきたい。

④内部評価欄の件がおっしゃるように企画部門で担当部がつけた評価について妥当性などを確認していた。実際1年やってみたところ、実務を行っている担当課の事業が妥当かどうかの評価を企画部門で判断するのが非常に難しかったということと、その確認にかなりの時間を要し、課員の残業時間が100時間に迫ったこともあり、続けていくのは現実的ではないという判断を下した。そのため担当部局がつけた評価を内部評価と位置付けた。そこについての説明ができていなかった点についてお詫び申し上げます。

委員

今、全てにお答えいただくことではないかと思う。3年間やっていて気が付いたところを挙げたので今後参考にさせていただきたい。

委員長

意図をお聞きしたいことがあるのだが③の総合戦略とデジタル田園都市国家構想交付金の評価について大学の先生の論文を挙げていらしかった。地方創生についてなにか論文かエッセイがあるということか。

- 委員 総合計画の変更について書かれており、テキストを自由に使っていいという形で公表されていた。
- 委員長 今後のイメージがうまく理解できなかったのだが、これを施策評価と一体化してしまうと3年ローリングになる。ただそれだと国は1年ごとに評価を求めているので毎年の報告が必要になる。どういう風に整理したらよいか。
- 委員 総合戦略とデジタル田園都市国家構想交付金は別物である。総合戦略に出ているものがすべて交付金の対象事業にはなっていない。総合戦略は交付金のように成果説明に特化した評価ではなく、通常の評価をするべきである。交付金評価は今のままでいいかとおもう。総合戦略評価の冒頭に、実施したことなどの成果について話が行ってしまい、KPI などの話が論点にならない。これでは、総合戦略の評価とは言えないのではないのではないかと思う。
- 委員長 総合戦略について別途審議会などはあるのか。
- 事務局 別途しているものはない。国の手引きで総合戦略も外部評価を図るべきとされており、以前は総合計画と総合戦略別々に外部評価をしていたが、それぞれ行うと内容が重なる部分もあり非効率になるので、必要なメンバーを兼ね備えた行政評価委員会を作り、総合計画も総合戦略も行政評価委員会で評価しようとした経緯がある。
- 委員長 総合戦略と総合計画の関係性の整理が必要な話である。
- 委員 委員としても、市として重視しているところに注力したい。義務的に評価シートを外部検証しないといけない部分と施策評価のように事業の内容をしっかりと聴き、意見交換をする部分区別した方が良い。後者であれば、対面する価値があるかと思う。
- また、宝塚市から見てこの行政評価委員会に対する評価もあっていいのではないか。宝塚市としてこの委員会はこのあたりに効いていますという評価はいただいていない。お互い3年やってきたのでいろいろわかってきたこともある。市民アンケートを指標とすることの問題は委員長も前段に書かれているが、委員の皆さんの統一した思いだと思う。企画部門が提案しても、上下関係がない以上は浸透しない。外部評価でお伝えしてはじめて伝わることもある。
- まとめるとデジ田と総合戦略については、できるだけ負担を軽くしていただきたい。もう1つは今後の委員会に向けて、委員会をどのように活かして、担当課の事業に影響させていこうと思っているのかを聴きたい。
- 企画経営部長 各部局で事業を展開していく中で指標の見直しなどについて皆さんからいただいた意見についてしっかりと反映されていてっていると認識している。また、行政評価委員会の場に出て、説明をして意見をいただくということは職員の意識を変えるという点でも非常に大きな意味合いがあると思っている。
- 委員 参加していて、前半と後半の温度が違った。後半は ZOOM でもよかったかなと感じた。全体的に担当課の方によって行政評価に関する知識や意気込み、技術的な部分、指標の設定の仕方などもずいぶん違う。基本的な内容で、行政評価委員会でいべき意見なのか迷いなが

ら言ったこともあった。前捌きは難しいところはあるのかもしれないが、せめて KPI やアウトカム、アウトプットなどの最低限の知識は共有してもいいのではないか。行政評価について適切なのが発言していいのか手探りでやっていた。前提のレクチャーももう少し丁寧にさせていただきたい。資料の説明は不足しているのに、資料の分量はすごく多い。大量な資料を毎回1~2時間かけて整理してから資料を読み込んでいた。7, 8月は忙しい時期だが時間をかけていた。

委員長

事務事業評価表もついているのでそこまでみんな読んでコメントしてしまう。この委員会でやっているのは施策評価なので施策評価表についての修正の有無やコメントをしないといけない。担当部局の前捌きだけでなく委員の資料の前捌きもしていただきたい。短い時間でやるので、事務局の前捌きは必要なこと。

委員長

自治体によっては、行政評価委員会の開催にあたり、施策評価表1枚に別途パワーポイントで説明資料をつけているところもある。担当課に負担がかかるように見えるが意外と説明資料をもっているのだからそんなに難しい話ではない。また、事前に研修をして施策評価表の作り方のワークショップを担当部局に説明しているところもある。このようにブラッシュアップしたうえで出すという前捌きのやり方もあるので工夫の余地はある。

委員

行政評価委員会初めて参加したが、税理士会に依頼が来たので数字の世界がもう少し入っているものだと思っていた。確かに予算や消化率については数字に関連があるが、その部分の議論意外に少なく、それぞれの中身の評価が中心で、税理士に何を求めて依頼してきたのか最初戸惑った。実際にこの評価をみると、予算や数値の評価があまり重要視されていない。今後もその形なのか。また、全体像が見えない。事業の背景やなぜその事業があるのかもわからないし、相対評価ではなく絶対評価をしなくてはいけないというのは適切なのか苦しんだ部分がある。評価指標のレベル感も違い、その中で絶対評価していくのは無理がある気がした。全体の評価をどうしていくのか、研修やガイドラインをつくるなど軸を作っていく必要があると感じた。

委員長

少しずつブラッシュアップしていくしかない。わからないことをわからないと言ってもらっていただくことも価値があると思う。

委員

全体像が見えず、何を質問していいのかがわからなかった。

委員

私は今年度から委員として参加させていただき、いろいろモノの見方などが勉強になった。今まで施策を作っていくという部署にいなかったもので、どういう視点で評価したらいいかがわからなかった。健康福祉事務所なので医療関係や福祉関係の意見を言わないといけないと思っていたが対面評価の日に別の会議が入り出席が叶わず心苦しい。

次年度の方針について、書面評価の見直しとして裁量の大きいものに絞って対面評価をするということだが、どの施策とどの施策が関連しているのかがわからなかったので、相関図のようなものがあつたら見やすいのかなと思った。

委員長

組織という切り口で予算要求と紐づいている状態で評価するものと、施策という切り口で評価をかけていく場合がある。どっちにむけていったら合理的かというのはさまざまな考え方があ

り、難しい問題である。相関図を作ると余計ややこしくなるかもしれない。

委員

会社経営と重ね合わせて行政を評価していた。会社経営と行政サービスとは目的やアプローチが全然違う。今回思うのが宝塚市は第6次総合計画で2030年までの長期計画を立てられたことは良い。しかしながら、そこに本来は数字目標値があるべきである。その数字を入れるのは行政の意思と夢が必要だと思う。2030年の宝塚はこうありたいというのが必要で、今なら入れられる。10年後どうなっているかわからないが、我々企業も2030年をゴールとして長期経営計画の目標値を立てている。その目標値からバックキャスト(逆算)し、1年目、2年目の目標を順次設定する。高い目標を立てて挑んでいくことが重要である。

ただ今回の行政評価を通して、宝塚市の2030年の目標値が腹に入っていない。各部署から「2030年からバックキャストした数値目標を置いた〇〇という施策に対して3000万使いました、その成果がこうなので評価はAです」という説明が必要だが、目標設定の根拠や費用対効果が全く分からない。経営や行政は掛けたコストに対する成果を数字で評価するべきで、数値目標を明確にしたほうがよい。

宝塚市の最大の課題は人口減である。今22万人いる人口が2060年には18万人ぐらいに減少する。人口ビジョンで少子化対策などの努力目標も含んだ数字であり、その努力目標が課題である。人口減少予測に対し、種々施策や努力目標を立て上方修正している人口増分はどれだけなのか、そのために例えばインバウンドや外国人労働者を増やすとか、企業誘致で雇用を増やすとか、他府県から子育て世代に来てもらってハッピーな子育て環境を整えるとか、それぞれの課題と施策、目標値を明らかにする。その上位課題や目標値、施策を、組織ピラミッドの下の実行組織に順番に割り付ける。子育て部門は何をする、産業部門は何をするなど。組織ピラミッドの上位の大きな数値目標を2030年に人口、産業、医療、福祉、教育、社会インフラなどをどうしていくかという施策へ展開しなければならない。その目標を達成するために市の予算を組み、不足分を国の交付金を活用するというストーリーや考え方が必要。今は、交付金ありきで、目標や施策の展開が後付けて逆転しているので迫力がない。

もう一つの柱はSDGsである。人権や環境、コンプライアンスなどいろいろあるが、その数値目標も第6次総合計画の柱だと思う。上位のビジョンは立派でよく見える一方で、末端の施策レベルを評価していると、上と下が繋がっていない為、この施策で大元の課題である人口減が食い止められるのかわからなくなる。財源の制約もあり、重点課題解決に集中して施策や事業を取捨選択したらいい。日常オペレーションとして行政サービスは会社経営と異なり、赤字でも継続しなければならない事業もあると思う。例えば環境やごみ収集、上下水道などはどの市町村でも赤字事業と聞く。でもライフラインとしてやらなければならない。だから作業の省人化、効率化を図る為、新しい技術・サービスを導入し、交付金を使ってデジタル化の実証実験をしていこうという考え方が必要。交付金があるから使おうとするのではなく、そこに課題解決の意思や施策がなければならないと思う。

答申書はいろいろな方の知見がまとまった良い資料かと思う。これをベースに、市長と議会へ丁寧に説明して、宝塚としてこういう課題があり、行政評価委員会からこういう指摘をいただいていることを広く知っていただき、問題提起をしてはどうか。会社経営では赤字事業になれば、株主や投資家から冷たく見放され、株を売られるだけの話だが、行政は赤字でも、そのまの市民は出ていくわけにはいかない。赤字でも市民ファーストでやり続けなければならない。利害だけでは割り切れないと思う。市の財務健全性もある程度考慮し、プラマイゼロでやっていく必要はある。今後人口も減り、法人税なども減っていく中で、どうやって市の財源を維持・確保

するのか。これまでと次元が違うことを考え行う必要がでてくる。出生率が大幅に下がっている
ので人口は急激に減ると思う。この様な大きな変化点を迎えている今こそ、2030年までの長
期計画を立てることは大きな意味や価値があると思う。

委員長

追加で意見がある場合は今週中にいただければと思う。

最後に私から、3年間感謝申し上げる。タイトなスケジュールで資料も複雑だったが、これだけ
の議論ができる委員会は珍しいと思う。施策の内容についてかなりコミットメントした状態でこ
れだけ意見を申し上げたが、この委員会の答申は全部反映することが前提となっている。普通
は答申を出しても無視される。担当部局に聞いたときには、「はいわかりました」と言ってもら
い、反映していただけるものと思っている。市長にもそういう状態の答申であることを伝えよう
と思う。これだけの委員会はなかなかできるものではない。このことは誇りに思っている。宝塚市
はあこがれをもって見られる自治体である。転入転出の関係は別として、パワーコンテンツも持
っており、立派な自治体だと思う。もっと自慢していただいているのではないかと。自治体はどう
してもこの自慢が弱い。税金を払った市民の成果でもあり、市の財産ということになるので、
PRできる部分はしっかりPRしていただきたいと強く思う。施策評価の振り返りで反省点ばか
りは寂しい。「こういうこともできた」など、しっかり言っていただければと思っている。それだけの
コンテンツ、歴史と伝統を持った自治体だと思っているので、ぜひ総合計画の振り返りをされる
際には気に留めていただければと思うし、市長、議会共に共有していただければと思っている。
議事を事務局にお戻りする。

企画経営部長

今回、一区切りということでありがとうございます。委員会の運営については、事前にもう少し
丁寧な説明が必要だったのかなと思う。資料の作り方もそうだし、意見をいただきたいポイント
なども最初の段階でもう少し丁寧にしたほうが良かったと思う。市の内部でPDCAサイクルに
ついて十分わかっていない部署もあるのかなと思った。PDCAサイクルの流れがあって、その
中で外部評価がこのような役割を果たしていただいているということをもう一度説明する必要
がある。今後につなげていきたい。行政評価にご尽力いただいて心より感謝申し上げたい。来
月、委員長より市長に答申をいただいて、委員会としての活動はいったん終了となる。総合計
画の評価も一巡し、委員の任期も今年度までとなっている。資料等でもかなりご負担をおかけ
したと思う。見直しを行い、より良い委員会運営につなげていきたい。委員会でいただいている
意見は事業や施策はもとより、職員の意識に大きな影響を大きく与えていただいていると思っ
ている。資料を読み込んでいただき、たくさん意見をいただきありがたかった。また違う形でも
市へ意見いただければと思う。いただいた意見を踏まえて持続可能、なおかつ市民の幸せに
繋がるようにしていきたい。ありがとうございました。

委員長

それでは第6回行政評価委員会をこれで終了する。皆さま、ありがとうございました。

閉会